

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都杉並区和田 1-17-6 小松本店第二ビル 1F
園名	カメラキッズ中野富士見町園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体の感覚（触覚・視覚・空間認知）を育む

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

マットやトンネル、プールスティックなどを使った遊びに興味を示し、体の感覚を使って遊ぶ姿が見られた。多様な器具を用いたサーキット活動を通して、触覚・視覚・空間認知を高め、身体全体で環境を認識する力を育むことを目的として、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

4月～3月の期間において、週1回の頻度で実施

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

安全確認用マット・記録用カメラ・記録用紙・トンネル・マット・プールスティック・平均台・ボール

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

マットやトンネル、ボールなどを用いて、触覚・視覚・空間認知を刺激するコースを実施した。月齢に応じて無理なく取り組めるよう構成を工夫し、子どもたちが自ら探索しながら進めるような仕掛けを取り入れた。また、個々の発達段階に合わせて関わり方や難易度を調整することで、安心して身体を動かしながら遊びを楽しむ姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

子どもたちは、ビニールシートで包んだお山やゆらゆらトンネル、横向き平均台などの遊具を使った運動遊びに取り組んだ。活動中は、0歳児も保育者の手を借りながら触れたり登ったりして挑戦し、1～2歳児は自分の力で登ることで達成感を味わう姿が見られた。友だちと「次はどこ？」と声を掛け合い、順番を守って協力する中で、視覚や空間の情報を共有しながら遊ぶ様子も確認できた。保育者は必要に応じて手を添え、子どもたちが安全に挑戦できるよう支援したことで、自然と触覚・視覚・空間認知を育む活動となった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今回の活動を通して、子どもたちは遊びながら触覚・視覚・空間認知を自然に育んでいることが改めて確認できた。0歳児でも保育者の手を借りることで安心して挑戦でき、1～2歳児は自分の力で登ったり渡ったりする中で達成感を味わっていた。また友だちと声を掛け合い、順番を守る姿から、遊びの中で社会性や協調性も育まれることに気づいた。保育者が適切に支援することで、安全に挑戦できる環境が子どもたちの学びをより豊かにしていることを実感した。